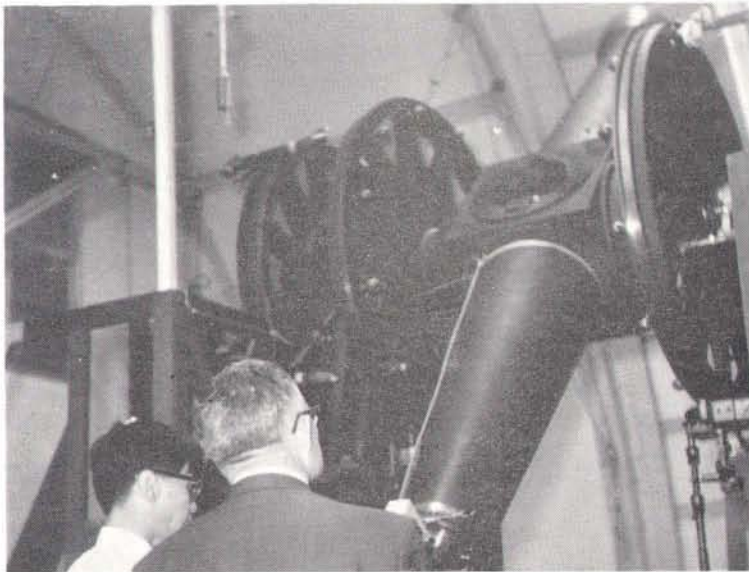




①



②

☆ G. A. チェボタレフ氏来日

レニングラードの理論天文学研究所長 G. A. チェボタレフ氏が9月24日から約2週間、来日し、東京、関西方面を旅行された。同氏はソ日協会レニングラード支部長の資格で、さきにレニングラードと姉妹都市の契約をかわした大阪市の招きで来日したものである。

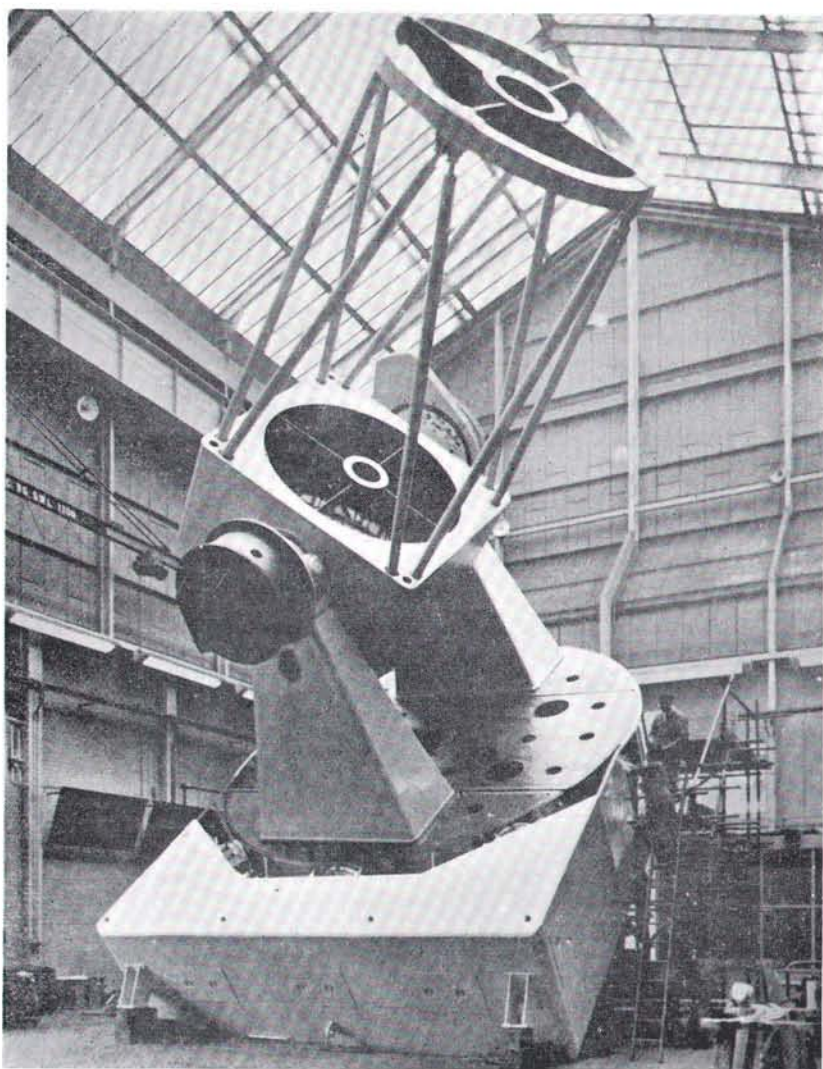
チェボタレフ氏は9月26日、東大天文学教室を訪れて“太陽系の力学的限界”と題する講演を行い、(写真①)、同日午後には三鷹の東京天文台を見学され、(写真②)、萩原雄祐氏、古在由秀氏、秋山薫

氏等多くの日本の知人との交情を暖められた。

ついて9月29日には京大宇宙物理学教室を訪問され、東京と同様の講演を行われ、花山天文台訪問、教室関係の学生との歓談などされた。

チェボタレフ氏は古くから小惑星の運動の研究で業績があり、平山清次博士の小惑星の族の研究を見て日本に関心をよせるようになり、ソ日協会に参加したという。最近では人工衛星の運動理論に関する論文も発表している。

なお、興味あることには、同氏はレニングラード市の副市長の役職にもつかれているという。



◇ アイザック・ニュートン望遠鏡

ハーストモンソーのグリニジ王立天文台に建設予定の 98 インチ望遠鏡は、上の写真のようにニューカッセルのグラブ会社で、7 月末に器械部の主要部分の組立を完了した。鏡の直径は 98 インチ、厚さは 16 インチ、重さは 9000 ポントで、鏡材はもともとはミシガン大学のために作られたものである。鏡の重量を支えるためには、ゴム製の袋に圧縮空気を入れたものを使っている。鏡の研磨はまだ完成していない。望遠鏡の可動部分は 85 トンで、極軸のベアリングは直径 22 フィート、1000 分の 4 インチの厚さの油膜の上に浮せてある。

◇ トミタ・ゲルバー・本田彗星の尾の変化

写真 ② から ④ まではカリフォルニア州のアラン・マクレアがピノス山で写した T-G-H 彗星の写真で、尾の変化がきわめて著しい。② は 7 月 3 日にフォクトレンデル F 2.8 カメラで 18 分の露出、③ は 5 日、④ は 6 日にツァイス F 3.8 カメラで写したもの、① はこれらを総合して、4 日間の尾の変化を説明したもの。

